

かわち



謹賀新年

「新時代の幕開け」

河内町議会議員一同
河内町役場職員一同

'18年広報かわちバックナンバー

★2018年の広報かわちを再現してみました★



広 報



編集・発行 河内町役場秘書広聴課
〒300-1392 茨城県稲敷郡河内町源清田 1183
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki-kawachi.lg.jp/>
モバイル版アドレス <http://www.town.ibaraki-kawachi.lg.jp/mobile/index.html>

河内町モバイルホームページ
QRコード
※QRコードは読みとれない場合もあり
ますのでご了承ください。





河内町議会議長
野澤 良治

誰もが希望の持てる 公平な町づくりを目指して



河内町長
雑賀 正光

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、平成最後の初春を心新たに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。新しい年が皆様と河内町にとりまして、昨年負けず劣らず素晴らしい年になりますよう、心から願っております。

スピードスケートの小平選手や高木姉妹の活躍、フィギュアスケートの羽生選手の2大会連続金メダルに日本中が沸き上がった平昌オリンピックの興奮から、一年が経とうとしています。

昨年は、そのほかスポーツ界では、大坂なおみ選手の全米オープンテニスの優勝や二刀流で大リーグに挑戦した大谷翔平選手の活躍。学術の分野においては、画期的ながん治療薬

新年あけましておめでとうございます。輝かしい2019年の新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、平素より町議会並びに町政に対し、深いご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、猛暑が長く続き、例年以上に自然災害が猛威をふるった年だったように思います。

台風7号と梅雨前線の影響などにより西日本を中心とした記録的な集中豪雨が発生し、平成最悪の水害と言われました。9月には、台風21号により関西国際空港が高潮で浸水、北海道胆振東部地震では、道内全域が停電するなど、日本列島各地に甚

の生みの親である本庶佑京都大学特別教授のノーベル賞受賞。また、昨年から昨年にかけての藤井聡太棋士の活躍など明るい話題がありました。一方で昨年は、西日本を襲った集中豪雨や北海道で発生した地震など、自然災害による大きな被害の発生した年でもありました。幸いにも河内町においては、こうした災害に見舞われることなく一年を過ごすことができました。

しかし、災害はいつどんな時、私たちの身に降りかかってくるかわかりません。町としましては、引き続きまして防災訓練の実施や防災体制の整備などに力を注いでまいりたいと思います。皆様にも一人ひとりが家庭でできる防災、減災ははじめ、地域における自主防災組織の一層の強化に力を入れていただければ幸いです。

人口減少が確実に進展していく今日におきまして、町を活性化するための方策に官民連携という考え方があります。行政は行政、民間は民間という従来の考え方や垣根を取り払い、官と民が相携えて町づくり、地域づくりを進めていくというものです。米と稲作農家の可能性を大きく広げる「ライスジュレ」を町が全面

大な被害をもたらしました。被害にあわれた方々には、一日も早く元の生活に戻れますよう、願わずにはいられません。

また、平成の終わりにあわせるかのように築地市場が83年の歴史に幕を閉じ、豊洲市場へ引き継がれ、スポーツ界では不祥事が続くのを払拭するかのよう、サッカーW杯の決勝トーナメント進出、第100回全国高校野球選手権大会での金足農風、大坂なおみ選手の全米オープンテニス優勝、大谷翔平選手が日本人メジャーリーガーとして4人目の新人王に輝くなどの明るい出来事は、日本を元気にし、私たちに夢と希望を与えてくれた年でもありました。

2025年の国際博覧会の開催地が55年ぶり2回目となる大阪に決まりました。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、人工知能や生命科学を体験してもらい、高齢化を見据えて健康で幸せに生きられる社会のあり方を提示し、多くの人が夢中になれる常識を超えた万博を目指すとしております。2020年の東京五輪とあわせ、地域経済が活性化し日本全体が元気になるような起爆剤になることを期待します。

新元号が始まる節目の時を迎える

的にバックアップしているのも官民連携の一つです。

さらには、当町は小さな町であっても「人的資源」はたくさんあります。町に住み、町を大切に思っている皆様一人ひとりが「人的資源」であり、町の大切な「宝物」です。この「宝物」にさらに磨きをかけ、町が少しでも賑わいを見せるよう共に力を合わせ、町に活力を呼び込みたいものです。

また、昨年は、町の歴史・文化や産業はじめ史跡や先人など、かわち学園の児童生徒が郷土について学ぶための教材「かわち学」を発行しました。「かわち学」を学ぶことで、子どもたちが生まれ育った古里に愛着を持ち、将来的に町のために汗を流してくれたなら、こんなに喜ばしいことはありません。

これからも、町ができること、町が持っているものを最大限に活用し、町のさらなる発展のため、より一層の努力をまいります。皆様におかれましては、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

五月には元号が改まります。新しい元号が何になるのか、心楽しみにしながらこの一年をご健康で過ごされますようお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。

わけですが、本町においても、少子高齢化が進行する中、子育て支援対策と若者の定住促進、そして、農業問題等引き続き取り組まなければならない課題は山積みしております。かわち学園義務教育学校がスタートし、自校式の給食も提供され、「かわち学」を学び、元気で郷土愛を持った子供たちが育ってくれるよう望むところです。

かわち水と緑のふれあい公園には、見る人訪れる人を温かく包み込むように光り輝く冬の新たな風情として未来へつなげていこうとイルミネーションが飾られるようになり、大変な賑わいをいただいておりますので、まだご覧になられていない方は、ぜひ、足をお運びいただければと思います。

我々議会一同、めまぐるしく変わる社会情勢を勘案しながら問題意識を共有し、町民の皆様の信託に応えられますよう努力を重ねてまいります。

どうか今年も、相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。